

開館10周年記念事業

# 時計をとめて

—写真でつづる20世紀—



「カサブランカ」 1942年 © Shooting Star/PPS

平成13年10月6日(土)~11月25日(日)



## 狭山市立博物館

協力：高橋彦一氏・PPS通信社

R100

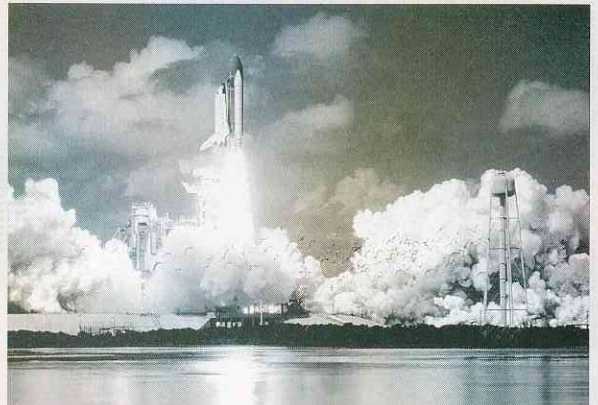
古紙配合率100%再生紙を使用しています。



ザ・ビートルズ 1964年 © John Launois/Black Star/PPS



パリ解放 1944年8月 © Corbis Images/PPS



スペースシャトル「ディスカバリー号」の打ち上げ1988年 © Corbis Images/PPS

## 開催にあたって

2001年は21世紀の最初の年です。そして、狭山市立博物館にとっては、開館10周年という節目の年になります。今回の企画展は、世紀の節目にあたり20世紀を振り返る写真展を開催いたします。

20世紀は「戦争の世紀」でした。地球上では様々な悲劇が繰り返されました。しかしそのことと表裏一体に「科学技術」の進歩が促進され、情報化社会の基礎が築かれました。破壊と創造——全く相反する概念がそれまでに激しく行動に移された世紀が20世紀だったのです。この世紀を人類の記憶としてどう残しどう生かすかは、私達の永久の運命をかけた課題です。そして、すべてのものが変化著しい現代、多くの人々の涙と英知の激動の世紀は、私達の心を残しながら少しずつ遠ざかりつつあります。

展示にあたっては、地域の貴重な写真から世界史的な写真までを混在して配置し、20世紀という時代を浮き彫りにします。写真とビデオなどの視覚メディアを駆使してお贈りする展示に、しばし「あなたの時計をとめて・・・」20世紀について振り返るひとときを過ごしてみませんか？

博物館に来て下さった皆さん一人一人が21世紀を歩む上でのより良いヒントを得られることができましたならば幸いに存じます。

最後になりましたが、本企画展の開催にあたり展示にご協力いただきました関係各位に厚く感謝とお礼を申し上げます。

平成13年10月 狭山市立博物館

### 講演会

演題 『狭山の20世紀』

日時 平成13年10月28日(日)

午後1時30分から

場所 狭山市立博物館 研修・講義室

講師 狭山市企画総務部副参事 高橋光昭氏

●受講希望の方は、10月16日(火)午前9時から狭山市立博物館へ電話でお申し込み下さい。(定員50名)



〒350-1324 埼玉県狭山市稲荷山1-23-1  
稲荷山公園(ハイパーク内)  
TEL.042-955-3804 FAX.042-955-3811

#### ◆交通

- 西武池袋線「稲荷山公園駅」から徒歩3分
- 西武新宿線「狭山市駅」西口からバス(稲荷山公園駅行) 終点徒歩3分
- 圏央道狭山日高インターより15分(5km)

- ◆開館時間 午前9時～午後5時
- ◆休館日 10/8を除く月曜日、10/9、10/26
- ◆入館料 一般/150円(100円)  
高校生・大学生/100円(60円)  
小校生・中学生/50円(30円)  
※( )内は20名以上の団体

開館10周年記念事業

# 時計をとめて...

—写真でつづる20世紀—



「カサブランカ」 1942年 © Shooting Star/PPS

平成13年10月6日(土)~11月25日(日)

 狭山市立博物館

〒350-1324

埼玉県狭山市稲荷山1-23-1

稲荷山公園 (ハイパーク内)

TEL. 042-955-3804

FAX. 042-955-3811

## 開催にあたって

2001年は21世紀の最初の年です。そして、狭山市立博物館にとっては、開館10周年という節目の年になります。今回の企画展は、世紀の節目にあたり20世紀を振り返る写真展を開催いたします。

20世紀は「戦争の世紀」でした。地球上では様々な悲劇が繰り返されました。しかし、そのことと表裏一体に「科学技術」の進歩が促進され、情報化社会の基礎が築かれました。破壊と創造—全く相反する概念がそれまでになく激しく行動に移された世紀が20世紀だったのです。この世紀を人類の記憶としてどう残しどう生かすかは、私達の永久の運命をかけた課題です。そして、すべてのものが変化著しい現代、多くの人々の涙と英知の激動の世紀は、私達の心を残しながら少しずつ遠ざかりつつあります。

展示にあたっては、地域の貴重な写真から世界史的な写真までを混在して配置し、20世紀という時代を浮き彫りにします。写真とビデオなどの視聴覚メディアを駆使してお贈りする展示に、しばし「あなたの時計をとめて・・・」20世紀について振り返るひとときを過ごしてみませんか？

博物館に来て下さった皆さん一人一人が21世紀を歩む上でのより良いヒントを得られることができましたならば幸いに存じます。

最後になりましたが、本企画展の開催にあたり展示にご協力いただきました関係各位に厚く感謝とお礼を申し上げます。

平成13年10月

狭山市立博物館

### 凡 例

1. このパンフレットは、平成13年10月6日から11月25日まで開催する平成13年度秋期企画展「時計をとめて・・・—写真でつづる20世紀—」のパンフレットである。
2. 掲載写真の一部は、高橋彦一氏所蔵のものであり、その他の写真はPPS通信社が国内での著作権管理をするものである。特に記載のないものについては狭山市所蔵である。
3. 会期中の展示替え等により、パンフレット収録の写真でも展示していない場合がある。
4. この企画展は、大谷武志・石川友子が担当した。

# 狭山の20世紀

1901年(明治34)5月10日、狭山の20世紀は人々の祝いのどよめきから始まりました。

この日、入間川と飯能間を結ぶ「入間馬車鉄道」が開通したのです。

それより6年前の1895年(明治28)川越一國分寺間を「川越鉄道」が結び、入間川は諸物資の集散地として発達していきました。入間馬車鉄道も川越鉄道も、ともに設置のため尽力したのは上広瀬村出身の清水宗徳でした。「入間馬車鉄道」は1915年(大正4)に武蔵野鉄道(現在の西武池袋線)が開通すると乗客は激減し、1917年(大正6)12月にその役割を終えました。川越鉄道は1922年(大正11)に西武鉄道となり、1927年(昭和2)には、ほぼ現在の西武新宿線ができあがりました。

大正期は、デモクラシーの時代であり、民主主義の思想が広まり普通選挙法が成立するなど、次の暗黒時代を迎える前の一時の明るさを持った時代でした。

この時期、狭山では製茶業や養蚕などの産業が発展し、特に製茶業においては機械化が急テンポで進みました。

1923年(大正12)9月1日、関東大震災が起きました。埼玉県は火災の発生がなかったこともあり、狭山も周辺地域に比べ被害は少なくてすみました。

昭和に入ると、1931年(昭和6)の満州事変、1936年(昭和11)の二・二六事件をきっかけとして、軍部の力が強くなっていきました。

狭山では日中戦争開戦の翌年の1938年(昭和13)12月、南西部から豊岡町(現入間市)にかけての地に、陸軍の士官候補生を養成する機関である「陸軍航空士官学校」が開校しました。同校は1941年(昭和16)には「修武台」と命名されました。

1945年(昭和20)5月25日、笹井がB29爆撃機による

空襲に会い、死者13名を出すという悲惨な結果を招きました。そして第二次世界大戦は、広島・長崎への原子爆弾の投下により、国民の生活を破壊しつくして終わりました。

狭山では敗戦と同時に修武台は廃校になり、同時にアメリカ第五空軍が進駐し、ジョンソン空軍基地と改称され、のちに航空自衛隊入間基地となりました。

戦後の日本では1946年(昭和21)「日本国憲法」が制定され、民主主義国家の道を歩みはじめました。それは、復興への長い道のりでもありました。

狭山市は、1954年(昭和29)7月1日、入間川町・入間村・堀兼村・奥富村・柏原村・水富村の1町5か村が合併し誕生しました。

狭山は現在県内有数の工業都市となっていますが、その基礎は1962年(昭和37)から始まった「川越狭山工業団地」の造成により築かれました。そして、工業団地の整備は、1966年(昭和41)に終了しました。

戦後日本の経済は、1955年(昭和30)から1972年(昭和47)にかけて「高度経済成長」を遂げましたが、1973年(昭和48)の石油危機をきっかけに低成長期に入りました。このころから狭山ではベットタウンとしての宅地化も進み、人口も急増して住宅都市としての性格も併せ持つようになりました。

平成に入ってから日本は、経済問題に加えて環境問題や高齢化問題を抱える中で、社会福祉の充実へ向けて大きく変化しつつあります。こうした21世紀に向けて、狭山市も多彩な表情を持つ都市として、未来へ向けて歩みはじめています。

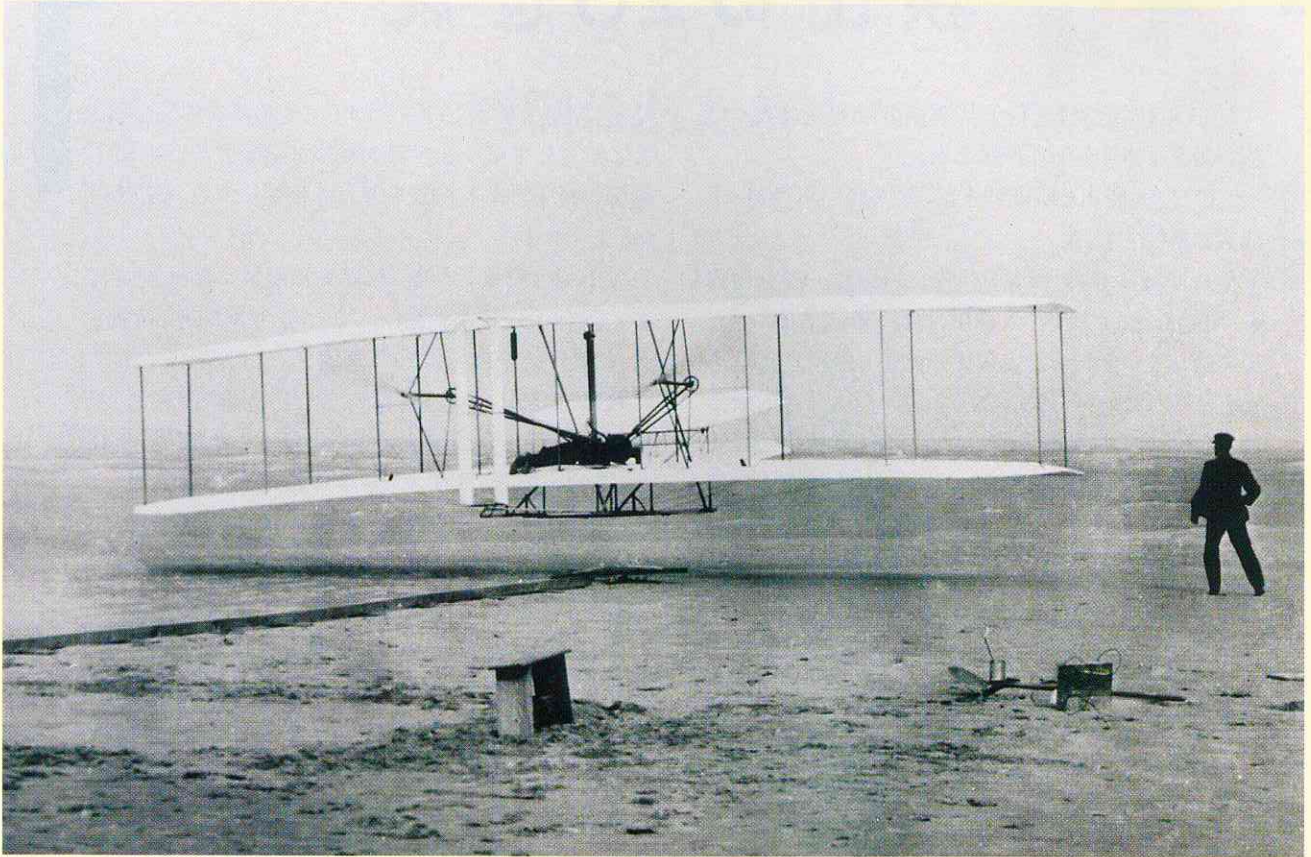
「緑と健康で豊かな文化都市」への限らない歩みは、私たちの幸せな未来への明るい歩みとなっていくことでしょう。



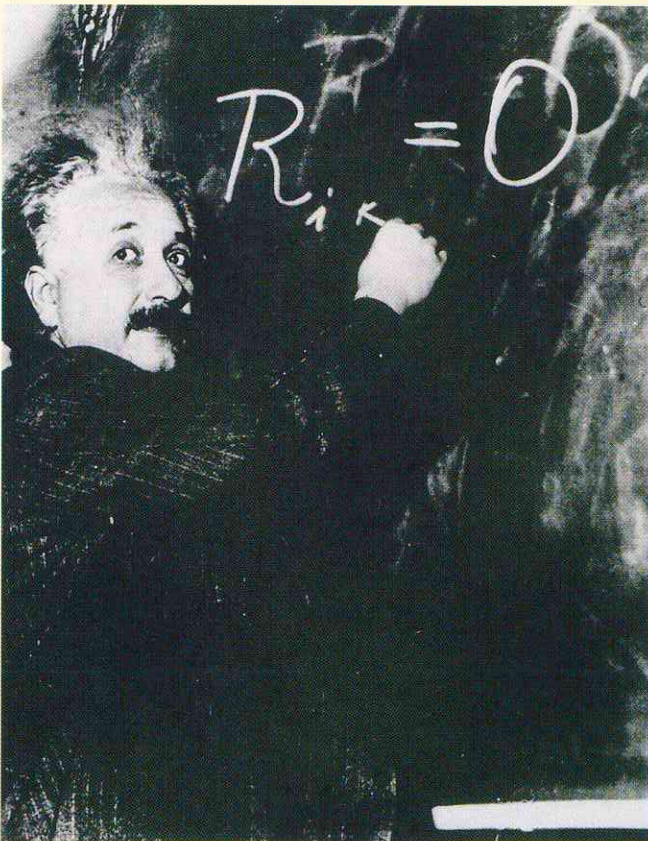
入間川の街中を行く「入間馬車鉄道」 明治35年頃(1902)

# 1901～1909

写真でつづる 20 世紀



ライト兄弟、エンジン付き飛行機で初飛行 1903年12月 ©Corbis Images/PPS



アルバート・アインシュタイン  
(Albert Einstein, 1879-1955) 写真: 1931  
©Corbis Images/PPS



サンフランシスコ地震 1906年4月  
©Corbis Images/PPS

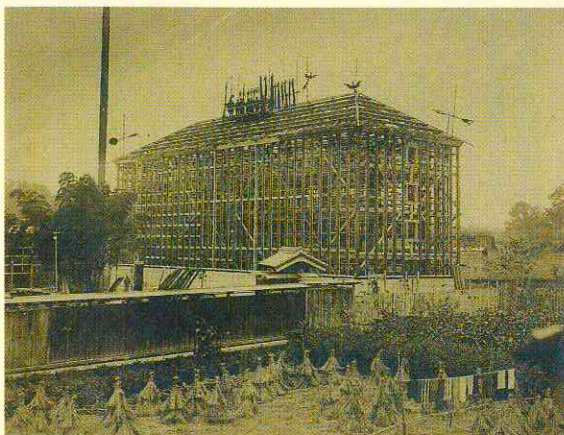
戦車の登場、第一次世界大戦

(1914-1918) ©Corbis Images/PPS



演説するレーニン(演台の横にトロッキー)

1917年 ©Archiv für Kunst und Geschichte/PPS

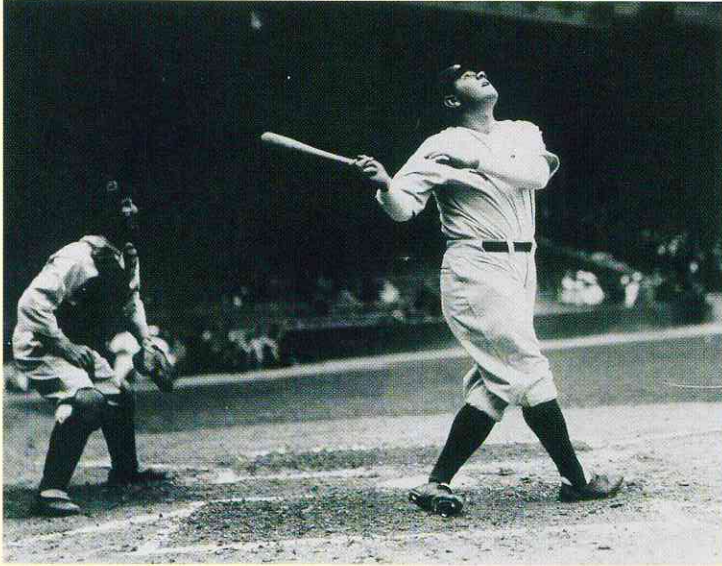


石川組製糸工場第三號倉庫上棟式(狭山)

大正6年(1917)

# 1920～1929

写真でつづる20世紀



ベーブ・ルース (Babe Ruth, 1895-1948)  
©Corbis Images/PPS

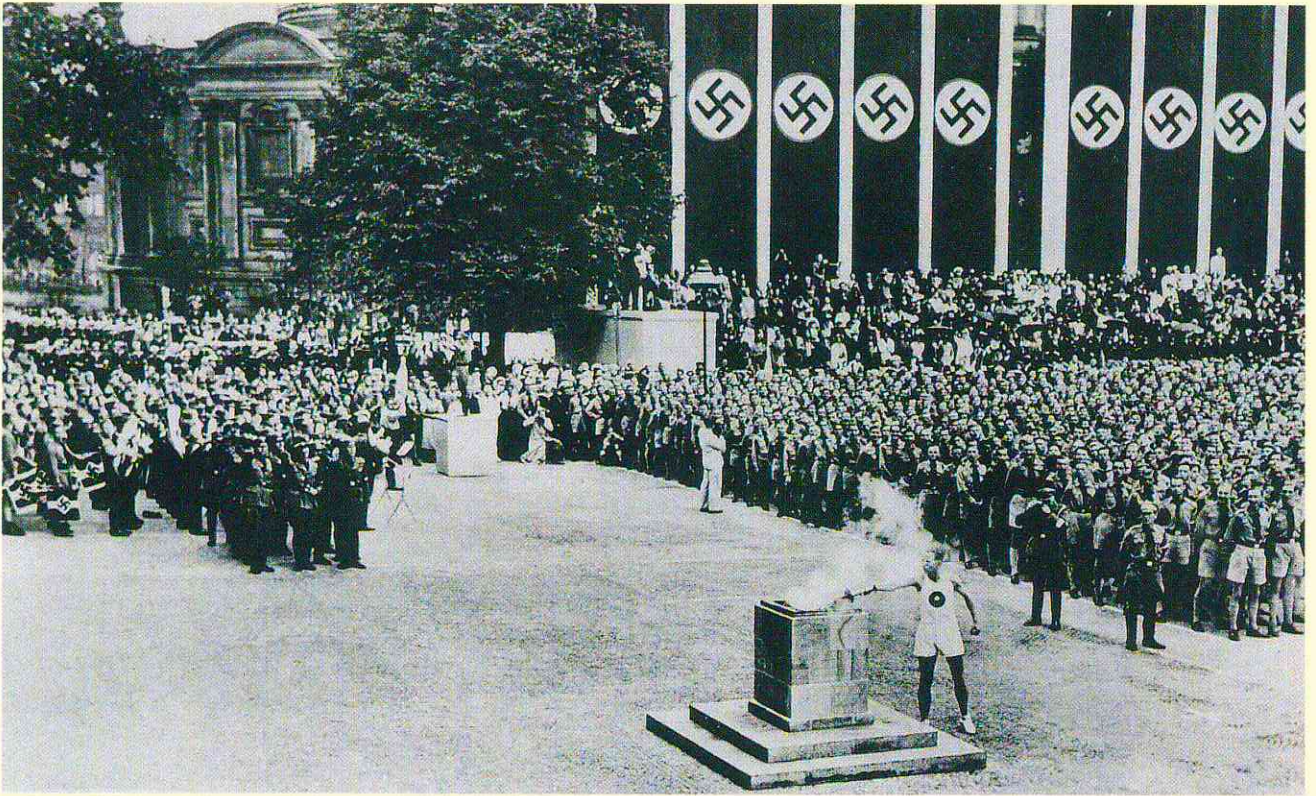


関東大震災 1923年  
©Corbis Images/PPS

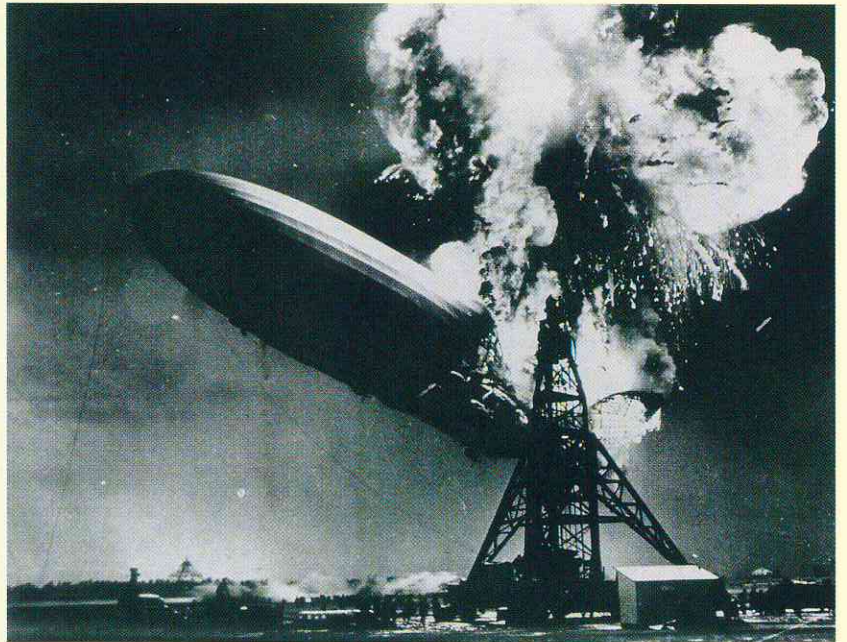


富士見橋(現在の本富士見橋)の渡り初め(狭山)  
大正12年(1923)





ベルリンオリンピック 1936年  
©Archiv für Kunst und Geschichte/  
PPS



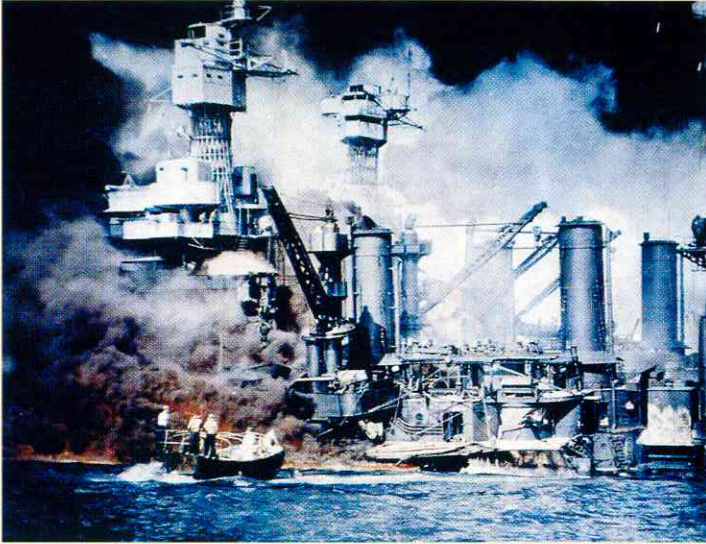
ヒンデンブルグ号の事故 1937年5月  
©Corbis Images/PPS



稲荷山公園の見晴らし台(狭山)  
昭和10年頃(1935) 高橋彦一氏 所蔵

# 1940～1949

写真でつづる20世紀



真珠湾攻撃 1941年12月  
©Corbis Images/PPS



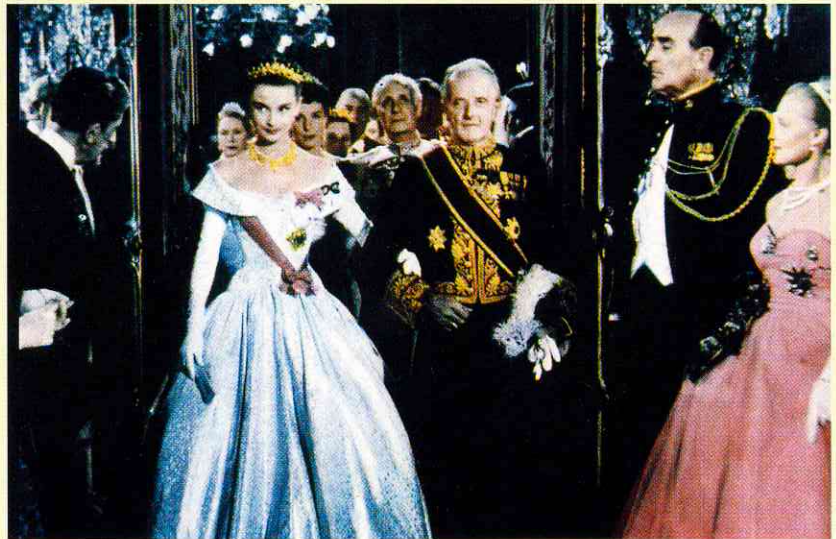
長崎に原爆投下 1945年8月9日  
©Photo Researchers/PPS



英霊の帰還(狭山)  
昭和18年頃(1943年) 高橋彦一氏 所蔵



朝鮮戦争 (1950-1953)  
写真: 1951年  
©Corbis Images/PPS



「ローマの休日」 1953年  
©Shooting Star/PPS



稲荷山公園駅踏切(狭山)  
昭和30年頃(1955) 高橋彦一氏 所蔵

# 1960～1969

写真でつづる 20世紀



アベベ、東京オリンピックのマラソン優勝

1964年10月 ©Corbis Images/PPS



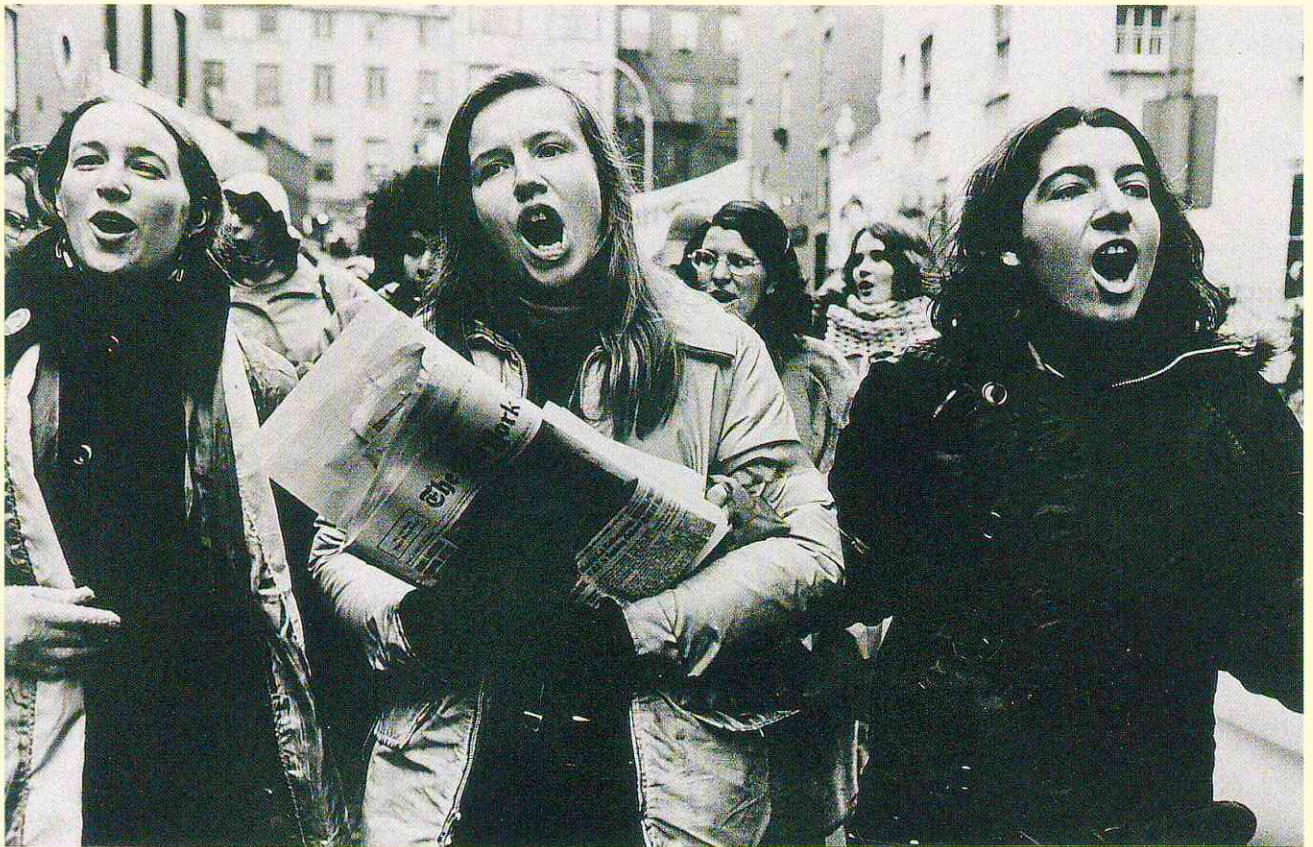
安全への逃避、ベトナム戦争 1965年9月

©Kyoichi Sawada/UPI/Corbis Images/PPS



埼玉国体の旗リレーが通過(狭山)

昭和42年(1967)



ウーマン・リブのデモ、  
ニューヨーク 1974年  
©Anne Dockney/Black Star/PPS



植村直己、北極点到達 1978年  
©Block Ira/Woodfin Camp/PPS



狭山市駅東口(狭山)  
昭和52年(1977)

# 1970～1989

写真でつづる 20世紀



ダイアナとチャールズの結婚式

1981年7月29日 ©Rex Features/PPS



ベルリンの壁崩壊

1989年11月

©Alexandra Avakian/Woodfin Camp/PPS



入間川の七夕まつり(狭山)

平成元年(1989)



湾岸戦争

1991年1月

©David Turnley/Corbis Images/PPS



ソビエト連邦崩壊、  
8月クーデター失敗

1991年8月

©Klaus Reisinger/Black Star/PPS



新生・入間川小学校(狭山)

平成12年(2000)

# Flashback the 20th century

## 1901→1909

自由主義の時代思潮のなか、19世紀後半より世界は新発見、新発明に沸き立った。科学技術の革新による工業化は都市化を促進し、大衆社会をつくりだす。通信と交通の技術革新はヒト・モノ・情報を、国境を越えて移動させ、世界を時間的に空間的に縮めることになる。空間と時間に対する感覚の変化は、学術、芸術などの領域で、伝統的な価値を否定する新しい考え方を生み出した。交通と通信を握った国は海外に進出して植民地支配を図った。ヨーロッパではドイツが台頭し、列強の仲間入りを果たしてイギリス、フランスとともに経済の発展を目指して植民地政策をとる。時代思潮は帝国主義へと転換し「ベル・エポック」は終焉、各国で労働運動、女性解放運動、社会改革運動が活発化していく。

## 1910→1919

1911年、中国では約300年にわたる清朝が終わりを告げ、ヨーロッパでは植民地化を図る列強間の利害対立、支配下の国々では民族解放運動が高まるとともに各国での社会改革を求める動きなど、紛争が続発、緊張が生み出されるなか、サラエヴォの凶変から14年に第一次大戦が勃発。戦争は対立するイギリスとドイツを中心に、世界的規模へと発展、兵器の技術革新により総力化、長期化を招いた。ロシアには革命が起こり世界に初めて社会主義政権が誕生。一方、アジアでは日本が大陸、朝鮮半島で勢力を拡大、これに対し民族的抵抗が生まれた。第一次大戦はアメリカが英国側について参戦し終止符。独軍が敗れ、アメリカの国際的優位が決定する一方、講和会議の結果、国際秩序としてヴェルサイユ体制が成立する。

## 1920→1929

第一次大戦後、植民地支配下にあったアジア、中近東、アフリカ、ラテンアメリカの国々では民族自決の動きが強まる。ロシア革命の影響を受け、ヨーロッパを中心に各国で大衆民主主義が進行する一方、それに反発するファシズムがイタリアで台頭。文化的には、世界のイニシアティブを握ったアメリカの大量生産方式による自動車や電気製品を中心とした生活様式やハリウッド映画、ジャズなどが時代の先端として受け入れられる。経済力を誇るアメリカでは多くの人々が株式と不動産の投資に熱中し、黄金の20年代といわれたが、その安定期に終わりを告げたのは、29年にニューヨークの株式市場を襲ったパニック、世界恐慌の始まりである。

## 1930→1939

世界恐慌のなか、アメリカでは12年続いた「保守の時代」に終止符が打たれ、民主党のルーズヴェルト大統領が経済再建のためのニューディール政策を打ち出す。ソ連ではスターリンが工業化と集団化を推進。ドイツは恐慌のショックが大きく、絶望に落とされた国民の不満を集めて登場したのがヒトラーだった。アジアでは1931年に満州事変を引き起こした日本が、国際連盟を脱退してワシントン体制を打ち砕き、軍部の独走を許して日中戦争に突入。世界政治は、イギリス、フランス、アメリカの民主主義陣営、ドイツ、イタリア、日本のファシズム陣営、ソ連の社会主義陣営が三つ巴となり、39年のドイツのポーランド侵攻を契機にこの陣営が衝突。ドイツにイギリスとフランスが宣戦布告し第二次大戦が勃発する。

## 1940→1949

第二次大戦でのヨーロッパの戦いは、北アフリカまで広がる。日本は、日中戦争のなかで「大東亜共栄圏」建設を唱え南進政策を進めるが、米、英、蘭の利害と衝突。1941年、真珠湾攻撃により太平洋戦争へと拡大。戦争は枢軸国の優位で推移、東欧で進撃を続けるドイツは、さらにソ連への侵攻を行うが失敗。結束した米、英、ソ連を中心とする連合国が反撃を開始。豊かな物資と新兵器の連合国を前に枢軸国は次々と降伏。日本も45年、原子爆弾投下という悲劇を招いて降伏。敗戦国・日本では占領軍により民主化が行われる。第二次大戦後、植民地だったアジアの国々が民族独立に動き出す一方、勝利に中心的な役割を果たした米ソ両大国が対立、資本主義対社会主義の対立として世界を東西の二つに分ける冷戦の時代を迎える。49年にはドイツが東西に分断、その翌年には朝鮮戦争が勃発する。



## 1950→1959

朝鮮戦争は戦後の経済に苦悩する日本に「特需景気」をもたらした。1951年、アメリカとサンフランシスコ講和条約を成立させた日本は、日米安全保障条約を結び共産主義封じ込め政策の一翼を担う。アメリカでは53年には共和党のアイゼンハワーが大統領に就任。ソ連では53年に独裁者のスターリンが亡くなり、フルシチョフによる緊張緩和推進のなか「雪どけ」ムードがみられたが、東欧各国へのソ連の支配力は相変わらずで、冷戦体制は変わらなかった。アメリカは49年に北大西洋条約機構(NATO)を結成、ソ連はワルシャワ条約機構(WTO)を結成して対抗。米ソ対立は、朝鮮半島やベトナムでのように代理戦争をつくり出していく。ラテンアメリカでは59年にキューバ革命が起こる。

## 1960→1969

1960年、日本では日米安全保障条約改定問題で総辞職した岸内閣の後を受けた池田内閣が「国民所得倍增計画」を打ち出し、高度経済成長時代を迎える。アメリカでは大統領に史上最年少のジョン・F・ケネディが登場、新風を吹き込むが63年に凶弾に倒れる。さらにベトナム戦争への介入が積極化するものの、解放民族戦線の抵抗は衰えず、泥沼化するなか、反戦運動が高まる。ヨーロッパは経済統合に再生の道を求め、67年に欧州共同体(EC)が発足。東欧では68年の「プラハの春」に代表される改革が行われ、ソ連の弾圧を招くが独自路線の追求が熱を帯びていく。中国では、66年から文化大革命の嵐が吹き荒れる。60年代末にはアメリカではカウンターカルチャー運動が起こり、日本やフランスでは学園紛争が多発した。1969年には人類が月面に立った。

## 1970→1979

泥沼化するベトナム戦争のなか、アメリカは北爆など力による解決を行う一方、中ソの対立を利用して中国との国交を樹立し和平交渉を進めるが、南ベトナム軍が敗れ、1975年に撤退。その間、ニクソン大統領がウォーターゲート事件で米史上初の任期途中の辞任。中国では周恩来、毛沢東が76年に死去、文化大革命が終息。西アジアでは、73年の中東戦争でアラブ石油輸出国機構(OAPEC)が石油戦略を発表して世界経済に石油ショックを与える。79年、イギリスではサッチャーが首相に就任、先進国初の女性首相として登場。日本は72年に沖縄の返還を実現、高度経済成長を続けGNP世界第2位となったが、その結果として公害、自然破壊・環境汚染を引き起こした。石油ショックを引き金に低成長時代を迎えるが、自動車・電機などの輸出によって安定成長を続け、「経済大国」の地位を得て、国際的に大国としての責任を問われるようになる。

## 1980→1989

ベトナム戦争後、弱体化がみられたアメリカでは、強いアメリカの復活を説く共和党のレーガンが大統領に就任、レーガノミクス(経済再建計画)を発表。ソ連は85年に書記長就任のゴルバチョフが民主化を打ち出し、ペレストロイカ(改革)を宣言、レーガンに核兵器削減を呼びかけ87年に中距離核戦力(INF)全廃条約に調印、冷戦構造は終焉に向かう。89年1月、日本では昭和天皇が亡くなり時代は平成へ。6月、中国では民主化を求める学生・市民に軍が発砲する天安門事件が起きる。10月、東欧では民主化運動が高まり、東独、チェコスロバキア、ブルガリアの書記長が辞任、11月にベルリンの壁が崩壊、12月、ルーマニアでは大統領が処刑される。社会主義諸国の崩壊は経済的破綻が原因といえるが、それは米ソ二大国の弱体化に起因するもので、国際政治は多極化する。

## 1990→2000

石油地帯のアラビア湾岸では80年代からその覇権をめぐりイラクの拡張主義がイランとの紛争を引き起こし、1990年にクウェートに侵攻したイラク軍は、翌年アメリカ軍を主力とする多国籍軍との湾岸戦争に突入。社会主義諸国は崩壊を続け、90年10月に統一ドイツが実現、激変が続くソ連は91年12月に連邦が解体し11の独立共和国からなる独立国家共同体(CIS)に移行、ユーゴスラビアでは民族、宗教による紛争が内戦を招き、混迷の度を深めた。93年、欧州連合(EU)が発足。長年にわたり対立と流血を繰り返されていたイスラエルとパレスティナ解放機構(PLO)は和平にこぎつけながら、いまだ衝突が続いている。20世紀末、世界は、民族紛争、南北問題とされる飢餓や貧困の問題、地球的規模の環境破壊問題などますます深刻化している。豊かな21世紀を実現するためには、これらの問題を克服していかなければならない。

狭山市立博物館 開館10周年記念事業

時計をとめて… —写真でつづる20世紀—



カフェで育まれた大衆文化、パリ  
1930年代 ©Corbis Images/PPS